

第5回 千曲市食料・農業・農村政策審議会
議 事 録

日 時：平成22年12月20日(月) 13:30～

会 場：千曲市役所 上山田庁舎 301 会議室

出席者：村山会長、橘田副会長、関口委員、北村委員、寺澤委員、
瀬在委員、渡島委員

欠席者：荻原委員、西村委員、三井委員、山本委員

議 題：農村施策に関して

1 開会

平林課長よりあいさつ

2 会長あいさつ

村山会長よりあいさつ

3 経過報告

(1) 庁内検討会議(庁内ワーキング)の開催について
事務局より説明

4 議 事

(1) 農村施策の検討

【3-1】農業の生産基盤であるほ場、農道、用排水路、ため池等の整備及び遊休・荒廃農地の
解消などによる優良農地の確保に必要な施策

- ・ 資料に沿って事務局より説明
- ・ 質疑応答については以下の通り

委員	土地改良事業での「整備」のほか、「維持・管理」を施策に加えてはどうか。 基盤の整備と同時に維持・管理作業も大きな事業だと思うが。
橘田副会長	「効率的な利用の促進」に入れてはどうか。
事務局	農業用水利施設の維持・管理に関しては「長寿命化」に取り組んでいる。 3-1(2)農業基盤の整備開発に該当するのではないか。
村山会長	長寿命化など維持・管理に関する事項も明確に示すべきではないか。 事務局の方で加筆していただきたい。

【3-2】農業及び農村の持つ多面的機能を十分に発揮させるための環境整備の推進に必要な施策

- ・ 資料に沿って事務局より説明
- ・ 質疑応答については以下の通り

委員	棚田に関して、市民による耕作の取組みが見られるようだが、個人で耕作しているほ場面積が全体の中では多いのではないか。
委員	全体の中では個人で耕作している面積が多い。しかし、耕作放棄が進んでおり、実感としては全体の1/3くらいが遊休荒廃地ではないだろうか。我々の団体では30人で5~6反くらいを耕作している。人手が足りず、耕作放棄地の拡大に追いつけないのが現状だ。市民による維持管理団体の拡大が必要だ。
村山会長	棚田の維持管理を担える団体、市民とは可能性としてどのような人が考えられるだろうか。
委員	私は団塊の世代など定年後の市民に担い手としての可能性を感じる。
委員	棚田のオーナーは何年も続いているのか。それとも単年で終わってしまう人が多いのか。
事務局	棚田オーナーは1年または複数年どちらも募集している。現在70組が体験コースのオーナーで15組が保全コースのオーナーとなっている。
委員	千曲市民のオーナーはどれくらいの割合か。
事務局	千曲市民は全体の1割くらいである。近隣では長野市などが多く、遠方では神奈川県や兵庫県も応募もあった。 ただ、住まいが遠方で維持管理活動が困難なケースはお断りしている。一方で、農家からオーナー制度で管理してほしいとの要望は強まっている。しかし、維持管理を行う団体の人手が足りていない。
村山会長	棚田保全4団体のように棚田の維持管理活動を担う人々の確保が重要であることがわかった。こうした活動を行うには、やはり農業の経験が必要だろうか。
委員	我々は農業経験のないところからはじめた。我々の場合は、作業などは地元の農家から教わった。農業の経験がなくても、やり方によっては十分取り組める。
委員	棚田は観光地として整備されていないのでうまく観光に利用できていない。棚田の観光利用をもっと促進すべきだ。
委員	私も商工会という立場から食品加工・観光について同様に思う。バスで姨捨棚田を観光できるように整備すべきだ。

村山会長	観光については 3-3 で議論していきたいが、観光を経済効果に結び付けなくてはならない。
橘田副会長	遊休荒廃農地に関して、現在現状調査を行っているようだが、実感では 7 割ぐらいが山林化して復元ができないようになっているのではないか。現在の所得補償などの国策を見ても、現状の制度では担い手はおらず、厳しい状況である。アメリカやオーストラリアはかなりの補償制度がある。
委員	ヤギの舌草刈りについて、以前取り組んだことがあるが、管理が大変だ。メスだと毎日乳搾りをやらねばならず、畜産などをやっている農家でなければ負担が大きい。また、キツネやタヌキなど天敵がおり、夜も管理が大変だった。
事務局	長野牧場（佐久市）からヤギを借りることを現在検討している。昨年度まで既に取り組んでおり、去勢したオスを考えており、比較的扱いやすかった。電気柵で囲い込むことで管理できる。
村山会長	猟友会による個体調整について、現在、猟友会がどの程度活動できるか。
委員	私も猟友会会員だが、銃の所有者は年々減少している。銃を持つことに関する規制が厳しく、講習や検査、手帳の更新などに維持管理に費用がかかる。
村山会長	厳しい状況だが、市としても何とか取り組んでいかないといけない。

【3-3】グリーン・ツーリズムによる都市住民との交流、農業及び農村に関する情報の提供並びに小学生等の農業体験を通じた農業及び農村の有する多面的機能の理解促進に必要な施策

- ・ 資料に沿って事務局より説明
- ・ 質疑応答については以下の通り

委員	観光と農業をうまく組み合わせるべきだ。棚田をうまく“みせる”ことが重要だ。
委員	夜景バスに合わせてキャンドルサービスなどを検討したい。
委員	姨捨棚田以外として、大池原体験の森を市民の農業の入門の場として宿泊施設として位置づけてはどうか。いきなり、維持管理作業をするのではなく、自然体験など参加しやすいグリーン・ツーリズムを検討すべきだ。
村山会長	グリーン・ツーリズムの千曲市の受け入れ窓口はどうなっているのか。
委員	観光に関しては旅行代理店などが行っている。
事務局 (幹事長)	現在、農業の視点から観光に利用できないか議論しているが、観光の振興を議論する際、姨捨棚田は本市の“売り”となっている。しかし、現状は

	観光客が棚田を見てすぐに帰ってしまう。産業として、地元での消費をどうやって促すかが課題だ。例えば棚田米の販売や宿泊施設、ウェルカムステーションなどが考えられる。
村山会長	<p>姨捨棚田に多数の観光客が来るが、どの程度の経済効果があるのかを計らなければならない。多面的機能を活用した新しい農業にどれくらいの付加価値があるかを検討する必要がある。</p> <p>観光側も農業体験をあわせた宿泊メニューを検討しなければならない。姨捨以外の場所におけるグリーン・ツーリズムを考える必要がある。</p> <p>また、窓口の整備の重要だ。例えば飯田では観光協会が観光の窓口を一本化している。</p>
委員	観光協会は姨捨棚田を取り上げようとしているが、農業者との密着度が足りない「あんず」を観光資源としてうまく取り上げたように連携を図っていくべきだ。
橘田副会長	姨捨サービスエリアがあるがあまり千曲市産がない。
事務局 (幹事長)	商品を入れるのは値段の関係で厳しいようだ。イベント（農産直売）を毎年2回開催している。ハーコットなどが好評だった。
委員	千曲市は、インターチェンジ、JR、温泉、あんず、棚田と資源に恵まれている。これらを組み合わせることにより、いろいろな地域活性化の可能性はある。
村山会長	本日の議論を反映していくということによろしいか。
一同	異議なし

【3-4】女性農業者の社会的経済的地位の向上を基本に、農業経営及び農業施策等への参画が促進されるよう条件整備を行い、農村における女性の持つ力が発揮される男女共同参画社会の確立に必要な施策

- ・ 資料に沿って事務局より説明
- ・ 質疑応答については以下の通り

委員	農村女性というと、JA女性部が活動していると思うが、JA女性部の活動の状況とご意見があれば伺いたい。
委員	JAの女性部も徐々に活動が変わっている。かつては生活支援などがテーマであったが、踊りや歌など文化活動が多い。例えば、女性大学という活動があり、様々な文化活動を行っている。
委員	“夢麺”は女性農業者の活動ではないか。
委員	<p>“夢麺”は女性農業者による起業活動である。</p> <p>その他の市内の起業活動として私が聞いた話ではりんご園などで食品加工や喫茶店のような店を出店したいが、許可などの取得がハードルとなって</p>

いるようだ。

橘田副会長 私もユメセイキを好んで購入しているが、やや高い。

村山会長 起業活動の支援としては法律や制度上の手続きがあるようだ。行政が支援できればよいが。

橘田副会長 女性の委員に関しては、千曲市では1委員会に2名以上女性委員を採用するよう運動している。区自治会でも1月に区長などへの女性の登用が議案になっている。

村山会長 本日女性委員3名が欠席している。本議題に関しては、特に女性の意見も反映させるべきだ。後日意見をいただくよう事務局のほうで取り図っていただきたい。

5 その他

事務局 より説明

- 次回開催について：1月31日（月）13：30～ 上山田庁舎
2月 パブリックコメント実施
3月2日（水）13：30～ 上山田庁舎

6 閉会

橘田副会長より閉会の挨拶

以 上